



延喜式内名神大社

生島足島神社便り

第 65 号



ごあいさつ／氏子定期総会／氏子総代・役員紹介 2

令和8年度事業計画 4

夏詣で 6

新任のあいさつ 7

生島足島神社の祇園祭 8



QRコード
携帯電話、スマホにて簡単に
ホームページにアクセスできます。



QRコード
「参拝の作法と参拝順序」
まいぶれ上田・東御にアクセスできます。

境内の品格



宮司
山崎 洋文

生島足島神社は、式内大社という看板を掲げています。式内社というのは平安時代初期の延喜という年号の972年の頃に定められた儀式集があります。その中の神明帳には朝廷がお祝いを届ける全国の神社の神様の名前が書いてあります。信濃の国では三十八座の神様の名前があり、その中でも特に大事な神様がたと表示され七座あります。諏訪の上社、下社、穂高神社、更埴の武水別神社、長野の城山にある水内大社と呼ばれる彦神別神社と我が生島足島様の七柱であります。

生島様、足島様は都を定める時に天皇が宮中にお祀りする日本国土そのものの御霊です。このような御縁で明治の三十二年七月七日に国幣中社に昇格しました。長野県にはこの社格の上は官幣大社の諏訪大社しかありませんので、県内二番目の社格を持つ神社ということとなります。

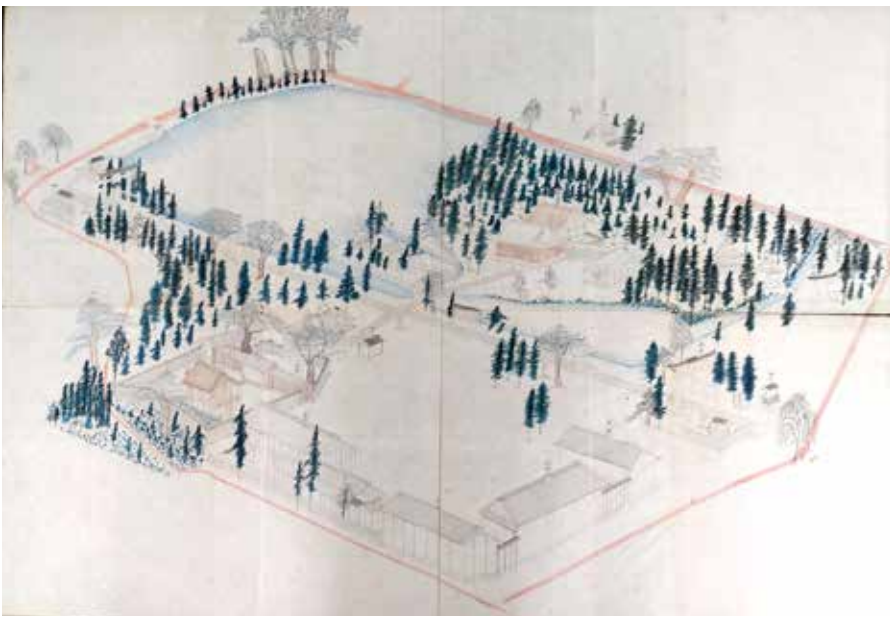
格というのは、難しいもので、無理やりにつくるものではなく、なんとなく感じてもらうものなのです。何気ないたはずまいの中に厳かさや品の良さを感じられよう日々の鍛錬の中からはみ出てくるものなのです。外観のたずまいもさることながら、仕事に携わっている人々の心根も反映してしまします。襟をただして、隠しごのないう浄明正直な態度が求められます。

現在では、社格制度はありませんが、旧国幣中社である生島足島神社の格を維持し子孫に伝えるのが私たち生島足島神社の関係者の努めとなります。参拝者のみな様が、清々しく感じ、癒しや力をもらえる雰囲気をも整っていただければなりません。

二年前に赴任した際に、国幣社らしからぬ感じを覚えたのは、神池の西側の仮橋とご祈祷控え所のテントやおみくじのテントでした。西橋は、昨年無理を言っ

国幣社にふさわしい、擬宝珠付きの朱塗橋を付けていただきました。残る課題は、ご祈祷待合室やおみくじ所をテントにかわる建物を作り、参拝者の皆様に気持ちよく使っていただけるかです。

検討委員会を立ち上げなるべく早期に建物をつくり解決したいと思っております。ご理解ご協力よろしくお願いたします。



役員と分担表



8班 野村 功一
祭典部長



4班 永井 悠太
経理部 (新任)



5班 横関 道昭
経理部



9班 堀内 光信
経理部長



10班 金森 豊
総務部 (新任)



6班 勝見 隆
総務部



8班 平田 寿和
総務部長 (新任)



9班 工藤 勇
氏子総代長



1班 村山 生夫
広報部長



10班 宮原 隆
管理部 (新任)



2班 柳沢 誘治
管理部 (新任)



6班 荒井 慶司
管理部



3班 伊藤 信豊
管理部



2班 村山 光義
管理部



1班 與川 富樹
管理部



10班 土屋 秀幸
管理部長

ご挨拶



氏子総代長
工藤 勇

新緑の候 氏子崇敬者の皆様方におかれましては益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

日頃より神社に深いご理解と多大なるご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症による接触予防の注意の時期以降、徐々にはありますが、ご参拝者や外祭のご要請及び当神社への正式参拝のご要請・ツアー観光バスの乗り入れ等が増加し、数多くの崇敬者にご来訪いただき、東信地区は基より長野県内でも有数の信頼される神社に肩を並べる状況となっております。これも一重に、氏子崇敬者はもとより神社関係者一丸となって取組んでいただいた結果と感謝申し上げます。

そのような中で、過日、令和八年度『神社定期総会』を開催し、「七年度事業報告」と「収支決算」および「八

年度事業計画」と「収支予算」および「八年度の境内清掃の出役依頼」について出席者全員の議決によるご賛同をいただきました。詳細は総会資料として各班選出の総代に資料を配布させていただいておりますので改めてのご報告は省略しますが、皆様方におかれましては機会があれば、その資料を是非一読いただければ幸いです。

その中で定期総会において触れなかつた事項について一部補足説明させていただきますと、昨年度に社殿前の夫婦白楨木（ヒモロ）の間に「さざれ石」を設置いたしました。



国歌の君が代に謡われている石で、小さな石が長年にかけて集り大きな岩となった貴重石として国家の繁栄や国民の結束を象徴するとされています。皆様方におかれましては、神社ご参拝の際に一見いただければ幸いです。

また、同様に昨年、皆様方にも投げ掛け祇園祭や夏詣の期間中に宮池周囲へ設置した「奉納提灯」ですが、今年度もご賛同いただける方々に追加設置

のご案内を申し上げ、一段と賑やかに夜間等の参拝者をお迎えする予定であります。

更に「御柱奉倒祭」で倒した四本の御柱については、一本は境内に飾り柱として古い柱と入れ替え、二本を建築材として地元企業にご活用いただき、残り一本については「お守り木札」として数多くの氏子崇敬者へ配付できるように加工し活用を図るよう致しました。神社での諸祭事の際にご参拝いただく時には、この木札をご利用いただければ幸いです。



今年度は、令和十年に予定されている『御柱大祭を見据えた諸々の老朽化した諸施設の改修』や整備を軸に、所内のOA化推進や催事の職員・総代一丸となった円滑な催行等に向けた各種検討委員会を立ち上げて、参拝者の方々に快くお迎え出来るよう精力的に取り組んで行く予定です。

具体的に整備関係については、ご祈祷待合所と御札・お守り等を一体化した建物設置計画を「総合的建物検討委員会」により立ち上げ、効果的な計画策定を目指す事。また「情報システム推進タスクチーム」によるOA化の一層の充実を図る事。更に、改修関係に



10班 小宮山 幸男
祭典部



4班 田村 智就
祭典部



5班 細山 貴寿
祭典部 (新任)



7班 宮入 一喜
広報部



8班 野村 均
広報部 (新任)



9班 歌 清春
広報部 (新任)

においては、社殿内でのご祈祷者の熱中対策として空調機設置や鳥居等の塗装剥離箇所および老朽化した設備の改修等を総会でご承認いただいた予算をベースに逐次・着実に進める予定です。総代・神職および職員一丸となって皆様方からのお知恵をお借りしながら、精力的に取り進めていきますので、今年度も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

終わりに、神社が地域の方々から愛され、益々の崇敬が活発となるよう、皆様方のご協力をお願いすると共に、ご健勝とご多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

令和八年度 事業計画

総務部

総務部長 平田寿和

一、総代及び神職・職員との「コミュニケーション」の確保

- ・総代と神職および職員との意見交換会開催による課題等の解消 二回／年程度

- ・業務繁忙状況に併せた適正要員の確保および配置

- ・「職制ならびに職務権限規程」「承認書取扱規程」等の規定類の整備構築

- ・「倫理運営委員会」開催による内部統制（ガバナンス）の充実

- ・「催事推進タスクチーム」の効果的且つ活発な推進による催事およびイベント対応等の円滑な対応実施

- ・責任役員会議、総代会、班長会の開催

- ・神社所内のより一層効果的なO/A化推進（共有サーバー化「所内ラン」）

- ・物品管理と日計収入管理・情報の共有化等）
- ・非常災害・防火管理体制の確立による防災訓練の実施

二、親しく訪れる神社参拝者増加対策の実施

- ・経理部とタイアップした神社参拝購入物品の新規開拓と購入拡大策の実御祈禱、祈願者の待合所設置および御神籤所設置に向けた建物新設計画の策定

- ・下之郷水土里まもり隊との調整による宮池の浄化対策の推進（泥上げ等）

- ・「夏詣」並びに「日本遺産レイライン冬至、夏至」イベントの円滑な推進

- ・各種祭事の円滑な推進に向けた総括（催事推進タスクでの関係箇所への水

- ・平展開）

三、土地建物の健全な保全

- ・令和十年御柱大祭に向けた建物および工作物の改修計画の立案
- ・神社建物および工作物に係る効率的な「損害保険見直し」の推進

四、各部の各種行事及び作業等への協力と支援

- ・経理部：社頭収入拡大と経費コストダウンの推進

- ・祭典部：例祭、お焚き上げ等に必

- ・要な諸物品等の調整による調達
- ・管理部：年末年始および除草・作業等への人的確保の対応
- ・広報部：祭事イベント対応及びダルマ販売等への支援

経理部

経理部長 堀内光信

一、適正な会計業務の推進

- ・日々の日系管理と金融機関への収入措置の徹底

- ・期末処理に係る内部監査および監査役監査の実施 一回／年

- ・予算執行状況の把握と決算処理の管理

二、収入増加対策の推進と費用コストダウンの徹底

- ・社頭収入拡大に向けた諸物品購入の検討と販売促進
- ・神社繁忙期のアルバイト、助勤等の「臨時従業員就業規則」に基づいた適正要員の検討と関係箇所との調整

- ・その他経費（光熱費、物品購入費等）のコストダウンの徹底

三、経理業務に係る所内ルールの構築

- ・一定金額を尺度とした物品購入に係る購買取扱ルールの構築

- ・工事請負に係る取扱ルールの構築

- ・祭事に係る諸施設リース契約の随意契約是非の検討と契約締結

四、各部と協働による事業運営の推進

- ・各祭事に係る的確な受付対応の実施
- ・各祭事イベントに係る直会での御礼品、会食等の手配

- ・祭事および各部の作業等に関する資器材等の適切な確保

- ・車両（軽ワゴン車）増設の新規購入およびリース購入等の計画立案

祭典部

祭典部長 野村功一

一、年間祭事計画に沿った諸準備と警護等の的確対応

- ・祭事に必要な物品の購入
- ・祭事での手水、圭吾神職補助等の実施
- ・祭事予定に沿った結果、紙垂およびスロープ等の会場準備推進

- ・神前結婚式等での傘持ち等の隊列対応
- ・祭事に伴う「山神」「青竹」「注連縄」の確保

- ・節分追儺祭での福升づくりの準備（焼き印準備）

- ・山神採取予定地（東山入会区および山宮周辺）の環境維持と的確管理
- ・子供による「浦安の舞」および祇園祭での「こども神輿」「大人神輿」の祭事対応

二、直営による核社殿等への大注連縄の取り換え設置

- ・「大注連縄タスクチーム」による成果を踏まえた逐次取り換えの実施

三、お焚き上げ場の適正管理と状況に応じたお焚き上げの実施

四、各部との協働による事業運営の推進

- ・ダルマ販売に係る諸作業への協力（会場設営、目入れ、清払い等）
- ・各部作業への協力（年末年始対応、除草倒）

管理部

管理部長 土屋秀幸

一、境内の環境整備の推進

- ・参道大鳥居の補修工事計画
- ・西鳥居および社殿等建物の塗装剥離箇所の補修計画
- ・本殿内の参拝者の環境整備に向けた冷房装置の設置
- ・宮池の定水位確保
- ・境内立木や庭木の適正管理と各社境内の定期的除草の推進
- ・参道、境内への敷き砂利等による整備実施
- ・状況に併せた境内清掃および倉庫内整理整頓（5Sの実施）
- ・境内落葉の清掃計画の立案と集積

落葉処理の実施

二、境内整備計画の立案と推進

- ・宮池周辺フェンス損傷箇所の改修
- ・構内駐車場の駐車ライン更新と窪地等の補修検討
- ・駐車場北側出入口のポールおよびチェーン改修検討
- ・本殿裏の支障木伐採計画とその実施（メタセコイヤ、クスギ）

三、社内発生廃棄物の適正処理の推進

- ・自治会での資源ゴミ回収に併せた資源ゴミの分別処理
- ・不要ゴミ等のお焚き上げでの処理と一般ゴミ処理業者搬出処理の実践

四、神社諸物品の適正管理

- ・幟旗下し時の破損箇所チェックと不具合箇所の改修
- ・所有車両の時期に併せたタイヤ交換の実施
- ・除雪機、運搬機器、薪割機、高速洗車機およびバックホー等の定期的点検による円滑な稼働準備の推進

五、祭事に向けた事前準備の推進

- ・年末年始に向けた諸準備の実施（薪作り、駐車場ライン引き、灯篭保護対策、案内看板設置等）

- ・各祭事における事前準備の推進（テント設営、茅の輪設置、神楽殿開放、歌舞伎舞台開放等）

六、各部と協働による事業運営の推進

- ・各部作業等への協力（年末年始対応、除草等）

広報部

広報部長 村山生夫

一、神社祭事等に係る記録の整理

- ・神社祭事での記録写真等による保存整理
- ・各種作業や行事等の記録写真等の保存整理
- ・広報紙（神社だより）の発行による氏子等への神社情報の提供 二回／年

二、広告媒体を活用した神社祭事等情報の周知

- ・ホームページの逐次変更による情報提供の推進
- ・各種マスメディアや広報誌を活用した神社情報の提供
- ・小中学校および高校、短大等への神社情報提供によるコミュニケーションの確保
- ・広告媒体の状況に併せた必要性見直しによる適正広報の検討

三、福だるま頒布の推進

- ・年末年始での「福だるま」頒布の推進
- ・「たるま特別会計」の的確管理による集約実践

四、カレンダー作成業務

- ・テーマ決めてその年に合わせたカレンダーを作成し、関係箇所配布

五、広告看板等の的確管理

- ・市内へ既設置の広告塔の補修点検の実施
- ・神社東鳥居横の看板のタイムリーな案内看板の入れ替え推進

六、祭事に合わせた関係機関との調整

- ・祭事に合わせた煙火打ち上げに係る関係機関との諸手続きの実施
- ・（消防署届け出、煙火業者との調整）
- ・祇園祭に合わせた車両通行止め措置の実施（上田警察署）
- ・年末年始の道路通行止め措置に関する諸届出の実施と看板設置

七、各部との協働による事業運営の推進

- ・各部作業への協力（祭事、年末年始対応、除草等）
- ・神社所内のより一層効果的なOA化推進（共有サーバー化、タブレットによる物品管理等）への協力



半年の節目、心のリセットを「いくしまさん」で
 信州の夏。境内を吹き抜ける風が、
 少しずつ涼を運んでくる季節になりました。
 一年の折り返し地点にあたるこの時期、私たちは過ぎし半年の無事に感謝し、これから始まる残り半年の平穩を



巫女
樋口真衣



夕暮れの風に涼やかな祈りをのせて
 蝉の歌。あなたの声も届いていますか？
 静かにたたずむ、ここ信州の鎮守の杜。
 真ん中にいくしまさんの社へ。
 夏詣（なつもうで）は、心をほどく小さな旅。
 日々の疲れをそっとおき、願いを灯すひととき。
 あなたの一步をやさしく迎えます。

祈る「夏詣（なつもうで）」の時季を迎えます。

お正月の「初詣」が、凜とした冬の空気の中で背筋を伸ばし、一年の志を立てる場であるならば、この季節の参拝は、いわば「心をほどくための旅」です。日々忙しきや暑さの中で、私たちの心には知らず知らずのうちに小さき強張りが溜まってしまっているのです。蝉の声に包まれた鎮守の杜に身を置き、ただ静かに手を合わせる。そんなひとときが、凝り固まった心を柔らかく解きほぐし、また新しい一步を踏み出すための光を灯してくれます。

本年も、皆さまに涼を感じ、心静かに過ごしていただけるよう、さまざまな行事をご用意いたしました。参道の入り口で日々の疲れをそっとおき、どうぞ日本の真ん中、一年の真ん中「いくしまさん」へ、心のリセットにいらしてください。



公式Instagramにて募集を行います。
 素敵な写真をお待ちしております。

フォトコンテスト
 (7月1日～8月31日)

令和八年度
「夏詣」行事日程一覧

本年の夏詣期間（7月1日～9月19日）における主な催しをご案内いたします。

風鈴小道

(7月5日～8月31日)

参道や境内に涼やかな音色の風鈴を設置いたします。



浴衣参拝

(7月25日～8月31日)

和装でお越しの方には粗品を贈呈いたします。また、8月11日・15日・16日・29日限定で、普段入ることができない「御神橋」での撮影が可能です。



祇園祭

(7月25日・26日)

25日は「下之郷三頭獅子舞奉納」が執り行われます。

26日は「浦安の舞奉納」や「お神輿」「奉納演奏」が行われ、射的やかき氷などが楽しめる「屋台村」もあり、境内が賑わいます。



灯籠展示

(7月25日～8月9日)

歌舞伎舞台にて地元の保育園・幼稚園の園児たちによる灯籠を展示いたします。



巫女体験

(8月2日9時～12時)

拝殿にて、普段できない貴重な体験を予定しています。



対象は小学校高学年から中学生の女の子。憧れの巫女の袴を着用いただけます。参加ご希望の方は神社まで直接お問い合わせください。

夜間参拝

(8月7日・9日 21時まで)

夜の静寂に包まれた境内全域をご参拝いただけます。



神賑祭

(9月19日午後)

境内特設ステージにて夏詣の締めくくりを彩ります。



期間中は、夏詣限定の御朱印・御守をご用意しております。暑さに厳しい折ではございますが、夕暮れの風が心地よい時間帯など、どうぞお気軽にお出かけください。皆さまのご参拝を、職員一同心よりお待ちしております。

いくしマルシェ

シルバーウィークに神社でマルシェを初開催予定です。キッチンカー・野点出店予定です。詳細は後日、乞うご期待。

新任のあいさつ



巫女 田中美羽

はじめまして、今年の三月に入社しました田中美羽と申します。

地元は小泉ですが、七五三や初詣等、節目節目には生島足島神社にお世話になっておりました。今回ご縁をいただき、この神社の一員として働けることを大変嬉しく思います。

数年前からアルバイトとして、七五三やお正月の時期に御奉仕させていただいておりました。御守りの授与や、御祈願の受付を主に行ってききましたが、正式に職員となったことで、これまでなかった神事や結婚式に携わるようになるので、身の引き締まる思いです。神事を通じて、神社の歴史や文化についても一日でも早く覚えて、貢献できるよう努めてまいります。

まだ分からないことも多く、皆様にご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

生島足島神社の祇園祭



権禰宜 友野直樹

生島足島神社の祇園祭は、近年「夏詣」の関連祭典として、多くの皆様にご参列いただいております。改めてその意義と次第を見つめ直し、諸祭典へとお力添えをいただければ幸いです。

祇園祭は、疫病退散を願う祭典です。その起源の一つは『備



後国風土記』に記された「蘇民将来」の伝説にあります。旅の途中で宿を求めた素戔鳴尊を、貧しいながらも真心込めてもてなした蘇民将来に対し、神様は「茅の輪」を授け、「子孫を疫病から守る」と約束されました。この信仰が現代へと受け継がれ、夏の厳しい季節を無事に越せるよう、全国で祇園祭が行われるようになりました。その授けられた茅の輪は大祓式にて潜ります。

当神社の祇園祭は、六月三十日の「祇園天王降祭」に始まります。この日、祇園

の神である建速素戔鳴尊を御歳代御仮殿にお迎えし、一ヶ月間大切にお祀りいたします。同日執り行われる「夏越の大祓式」にて茅の輪を潜り、無病息災を祈念していただきます。

そして七月最終月曜日、「御田植神事」とともに「天王昇げの神事」が営まれ、神様にお帰りのたぐこと一ヶ月にわたる祭りは幕を閉じます。いずれの祭典も参列自由ですので、ぜひお出かけください。



上田市無形民俗文化財

「下之郷三頭獅子舞」について

祇園祭において奉納される「三頭獅子舞」は、「種蒔神事」や「御田植神事」と深く関わる奉納行事です。古くから地域の農業と結びついて継承されており、現在は上田市の無形民俗文化財に指定されています。

◆奉納の流れと構成

行列は、大正殿にて一舞したのち出発します。露払(一)、笹持(二)、自治会長(一)、導祖(一)、三頭獅子(三)、縮太鼓(二)、笛(四、五)、警固(指南役含め十

前後)で構成され、厳かに境内へと進みます。西鳥居での口上の後、宮司・総代長の出迎えを受けて御本社でお祓いを受け、奉告祭を執り行います。その後、御神橋を渡って神楽殿へと進み、まずは上社(生島足島神)へ、次に向きを変えて下社(諏訪神)へ同様に舞を奉納いたします。

【演目】

- 一、シャギリ 二、道行 三、トローロ
- 四、岡崎 五、トロヒヤ 六、天竺
- 七、舞い込み 八、シャギリ

◆舞の特徴

近隣の伝承地にみられるような「雄獅子が雌獅子を奪い合う所作」が目立たず、全体に格調高いことが特徴です。特に揃った笛のリズムが肝要とされ、手替わり(交代)なしで激しい屈伸を繰り返す演舞は、非常に精魂を要するものです。

また、大団扇の代わりに「鉾」を持つ

「導祖(天狗)」や、「青大将」と呼ぶ竜型



(二本角・金菌)の獅子面など、独自の意匠が見られます。他地域の獅子舞に多く見られる、花笠を被った子供が「ささら踊り」がつかず、演舞中の三頭獅子舞の大きな特色です。

古くは元禄四年(一六九二)の記録に、溜池の土手工事の地固めに出場した記述が残ります。かつては御田植神事の苗を運ぶ氏子の傍らで、田を這うように踊ったことから「田の草獅子」とも称されました。

◆むすび

地域住民の皆様の多大なるご協力により、本年も祇園祭を斎行できますこと、深く感謝申し上げます。

参考文献

- 上田市エロ
- 八坂神社エロ
- まいぶれエロ

